

23 軟部組織損傷へのHBOが効を奏した一症例

山口裕和 大瀧辰也 田辺 元

中森和樹 西山 舞

出水郡医師会立 阿久根市民病院 診療技術部
医療機器管理科 高気圧酸素治療室

【はじめに】当院は、第1種高気圧酸素治療装置1台を有し、整形外科、脳神経外科、消化器外科の広範囲の疾患を対象とし、治療を行っている。

最近、整形外科において、軟部組織損傷に対する治療が拡大している。今回、右手前腕の発赤と腫脹で発症原因不明の軟部組織損傷に対して治療を施行したところ治癒せしめたので報告する。

【対象事例】1955年10月19日 52歳 女性

3月30日に山菜を取りに出かけた。帰宅後、右手首の腫脹・熱感を自覚。

翌日に搔痒感があったため、近医を受診し、ロセフィン・ミノマイシンの点滴を施行、フロモックスにて内服継続で帰宅。

しかし、翌4月1日に微熱が治まらず、右前腕まで腫脹拡大。同院受診し、そこで血液検査でWBCが2万以上の所見がある。

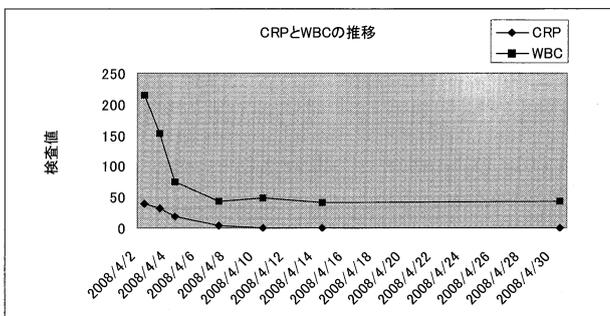
さらに4月2日全身倦怠感・頭痛・39℃を超える発熱があり、当院救急外来受診に至った。

受診時には、右前腕から上腕にかけて発赤腫脹に加えて、水泡・皮膚硬化が観察された。

細菌検査では、A群レンサ球菌抗原検出検査は陰性。水泡部滲出液にてグラム染色でグラム陰性球菌が検出。ガス壊疽or人食いバクテリア等の不明菌としてHBO開始。

【方法】0.1MPaで1日1回 4月2日～4月22日まで20回実施。

【経過】4月4日より、CRP・WBCも低下し腫脹も軽減する。水泡も縮小する。その後は発熱も改善した。



【結論】原因菌が検出され無かったが、早期にHBOを導入していただき治療促進に寄与したものとする。

24 細菌感染症例に対する高気圧酸素療法の現状報告

田端祐介¹⁾ 岩谷博明²⁾ 東 昭弘²⁾井ノ上博法²⁾ 迫田雅彦²⁾ 吉野聡史²⁾福留美千代³⁾ 諸富久展¹⁾

1) 鹿児島大学 臨床技術部

2) 同 救急部

3) 同 循環器・呼吸器・代謝内科学

【目的】当院では、高気圧酸素治療の適応を拡大して行う疾患が多く見られ、そのうち手術部位感染をはじめとする細菌感染患者への導入が増加傾向にある。そこで細菌感染患者に対する本治療の現況を集計し検討した。

【対象及び方法】平成19年1月～12月に感染症治療を目的に本療法を導入した患者93例を対象とした。細菌感染症例を感染部位により表在性感染（筋組織までの感染）、深部感染（胸腔・腹腔までの感染）、骨髄炎の3群に分けて治療回数を集計し、治療効果の評価と指標は主治医にアンケート調査を行った。

【結果】有効及び著効例が68例（84%）であった。CRPを治療効果の指標とした症例は54例（79.4%）であり、平均治療回数は、表在性感染16.6回、深部感染16.6回、骨髄炎44.1回であった。創の閉鎖を治療効果の指標とした症例は14例（20.6%）であり、平均治療回数は、表在性感染23.4回、深部感染46.4回であった。不変例（改善を見ずに治療中止）は25例で、平均治療回数は11.1回であった。

【まとめ】細菌感染症に対する本療法の治療効果は期待できると考えられるが、本療法導入後も効果の有無を考慮し、治療を行う必要がある。